

運動機会が発達に影響

先日、放射能汚染への対応に取り組む福島県郡山市に行く機会があった。郡山市ではペップキッズ郡山という施設があって、大変な盛況である。

低レベルの放射線を恐れて、小さな子どもを持つ親たちは、どうしても子どもを外に出したがいらない。子どもにお菓子を与える機会が増え、そしてテレビゲームに長時間夢中になることを容認しがちだ。その結果、郡山市の子どもたちの肥満度は顕著に高まっているという。発育に遅れの見える子どもも少なくないようだ。

伊藤 元重

機構教授 大東 啓東
研究員 長谷川 隆
理事 伊藤 元重
総務 伊藤 元重

小学校に入学する前後数年にすぎない運動機会に恵まれることは、その子のその後の発達に大きな影響を及ぼすようだ。運動といっても専門的なスポーツというのではなく、走ったり、登ったり、蹴ったり、投げたり、ぶら下がったりという、基本的な運動機能のことである。

小学校に入学する前後数年にすぎない遊びができる水場、トランポリンなどいろいろな遊具、そしてキッズシアターの施設にあるような子どものためのキッチン施設である。

施設だけではない。ペップキッズにはブレイリーターという若者が多くいて、子どもたちの遊びを先導している。ハードだけではな

力についての調査によれば、今の子どもたちは昔よりも運動能力が下がっているようだ。これが幼児期の遊びにどれだけ関係あるかは分らないが、子どもは、屋内でテレビゲームなどに興じるよりは、外で元気に遊び回るのがよい、と考えるのは私だけではないだろう。

子どもに足りない三つの「間」

郡山市では、子どもたちの運動不足に危機感を持った地元有志が、ペップキッズ郡山という施設をつくった。大きめのスーパーマーケットの店舗を地元の経営者が無料で提供し、その中にさまざまな施設をつくった。30歳のランニングコース、巨大な室内砂場と泥

い。ソフトも工夫している。こうしてハードとソフトの両方が相まって、この施設の魅力となっている。この施設には多くの子どもがやってくる。父親、母親、祖父母などにつれられてやってきた子どもたちは、目を輝かして遊んでいた。親たちも喜んで遊びに興じて

遊びを支える大人重要
今の子どもには三つの「間」が足りないという。仲間、空間、時間。一緒に遊ぶ仲間が少なく、十分に体を動かす空間が足りなく、そして思いきり遊ぶ時間がないという。こうした状態を放置しておけば、子どもの発達にも深刻な影響を及ぼしかねない。

ペップキッズ郡山のような試みを、全国で展開していったらよいと思う。子どもたちがみんなで体を動かす「三つの間」を提供するということが、地域全体で取り組む必要がある。それは公園や遊具などのハードの施設をそろえることではなく、郡山のブレイリーターの若者のように、地域の大人が子どもたちの遊びと交流を支えていくことが重要である。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。